

いわちゃん ポスト

千葉県議会議員

岩井 やすのり



事務所連絡先 〒270-1515 印旛郡栄町安食台 2-26-23-202
TEL 0476-36-7799 fax 0476-36-7802

HP <http://www.iwai-y.jp>

mail mail@iwai-y.jp

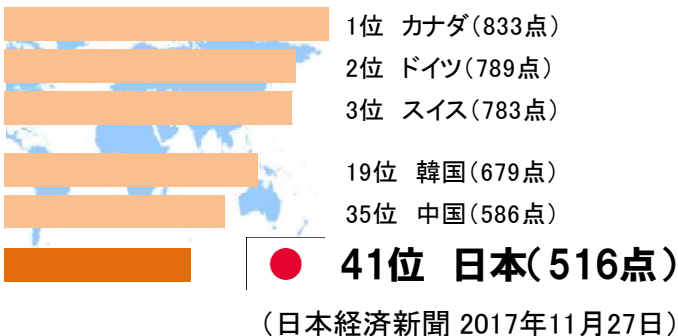
2020年度（2021年1月実施）入試から、センター試験に代わり実施される「大学入学共通テスト」。中でも新たに導入となる英語4技能テストは、わが国英語教育を一変させる大きなインパクトとなります。

日本人の英語力アジアでも低位

岩井 製造業の海外移転や外国人労働者、観光客の増加などを背景に、グローバル人材の育成が喫緊の課題となっています。

長岡 学校教育では、これまで英語を重要科目と位置付けてきたものの、わが国はTOEFLスコアで世界30位、TOEICスコアで世界41位。アジア諸国の中でも低位にあるんです。

TOEICスコア 世界ランキング



岩井 大学入試はペーパーテストが中心で、センター試験でもリスニング問題が出される程度。「読む」「聞く」の2技能しか問われてこなかったし、寄せと言ってよいでしょうか。

長岡 そうなんです。「出口」にあたる大学入試で2技能しか問

今回の入試英語改革の影響は、
大学受験をどうするかといった
目先の問題にとどまらない。

千葉県議会議員

岩井 泰憲

1970年生まれ 早大院修了。印西市内の学習塾・京葉アカデミーで教鞭をとった他、成田市内にて英会話教室を運営する等、民間教育機関での勤務、指導経験は計15年に及ぶ。



英語4技能試験

大学入試改革と その影響を語る

京葉アカデミー

長岡 悦二郎



(株)KAAアカデミー代表取締役。印西市内を中心に、進学塾「京葉アカデミー」、大学受験「河合塾マナビス」、英語専門教室「スーパージングリッシュ」などの校舎を展開。

グローバルな人材を育てるために、
英語4技能を身につけるための
大学入試の抜本改革が必要だった。

激変する大学入試英語

◆2020年～2023年度入試

センター試験に代わる「大学入試共通テスト」へ
英語の試験は次のいずれか、または両方を選択

- 4技能資格検定試験 (GTEC、英検など)
- 従来通りの共通テスト
(マークシート形式、「読む」「聞く」の2技能)

◆2024年度入試～

英語はマークシート式共通テストが廃止され、
英語4技能資格・検定試験に一本化

われていない結果、中・高での英語授業や受験生の意識も2技能中心のまま。グローバルな人材を育てるためには、大学入試の抜本改革が必要だった。

4技能を問う民間試験を導入

岩井 そのような背景の中で、2020年度入試から導入される大学入学共通テスト。英語試験では、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能が問われるようになります。

長岡 年間50万人以上が受験する共通テストで、新たに「話す」「書く」の評価を独自に実施するには莫大なコスト、時間がかかることから、GTECや英検などの外部の民間試験が導入されることになるわけです。

岩井 ただ、民間試験を採用することには賛否があり、東大や京大はその導入を見送るそうですね。

長岡 初年度となる2020年度入試では、東大、京大ともに「CEFR（セファール）基準のA2レベル以上」英検2級「準2級程度」を出願資格とし、民間試験の成績の提出は必須としないこととしています。ただ、

導入見送りになるのも最大で2023年度入試まで。2024年度入試からは4技能を測る民間試験に一本化されることとなっています。

日本社会を変える一大転機になる

岩井 各級の学校でも、英語教育の改革が進められると聞きました。

長岡 2018年度より、小3以上の英語活動が必修化。小5・6は英語が正式教科に格上げされ、従前と比較し授業数が3倍になっています。また、高校英語については2020年度より、英語で発表や討論する授業へと移行します。

岩井 うちの長男は現在高2で、ぎりぎり現行入試制度での大学受験となり、わが家では「何とか現役合格しなければ」と口を揃えているところですが、今回の入試改革の影響はそんな目先の問題だけではないと思っています。

長岡 その通りですね。大学入試で英語4技能が問われることになり、受験生、保護者、官民の教育関係者の意識が一変し、「話す」「書く」に力が注がれるようになってきています。日本人の多くが、実践英語を身につける時代はそう遠くないかもしれません。

岩井 windowsの発売を契機にパソコンが普及し、多くの人が使いこなすようになったのと同様に、今回の大学入試改革により、わが国でも実践的な英語を身につけることが普通になっていくのではないのでしょうか。世界との垣根がなくなり、共通語としての英語の必要性が高まる中、来たるべくして来た入試改革だと言えます。

栄町、印西市の国保負担金 被保険者数の見直しで大幅減

県による被保険者数推計が実数とかけ離れていた事により、市町村がその差額分の負担を強いられてきた国保事業費納付金。岩井は県議会にてその改善を求めてきましたが、31年度より同納付金の算定方法が見直され、栄町で8千5百万円、印西市で5千4百万の大幅減となる事がわかりました。

●被保険者数の推計誤差 市町村にしわ寄せ

これまで国民健康保険（市町村国保）は、市町村が個別に保険給付費を決定し、住民から徴収した保険料にてまかなってきました。しかし、「年齢構成が高く、医療費水準が高い」「所得水準が低く保険料負担が重い」等の構造的課題を抱える市町村が少なくなく、自治体単独での運営が行き詰まる事に。そこで今年度から実施となったのが、財政運営の主体を県へと移管する国保広域化。県が決定した国保事業費納付金（国保負担金）を市町村から徴収する一方、保険給付に必要な費用を県が支払う事により、市町村国保財政の安定化が図られたのです。

ところで、この国保事業費納付金の額は、県が市町村ごとの医療費水準や所得水準等により決定する事になっています。しかし、中でも重要な要素となる被保険者数推計値に大きな誤差が生じ、市町村が過大な負担を求められていたのです。栄町の例で言えば、30年度の実際の被保険者数が5,861人であったところ、県による推計被保

被保険者数推計に誤差が生じた理由

	被保険者数	伸び率
25年	3266万人	▲1.3%
26年	3215万人	▲1.5%
27年	3146万人	▲2.2%
28年	3048万人	▲3.1%

被保険者数の減少率は、年々大きくなっている。

直近過去3年度分の伸び率（減少率）から予測したもの、予測値以上に被保険者数が減少。

31年度からはより直近の伸び率を採用

推計被保険者数と国保事業費納付金（栄町）

年度	県推計被保険者数	国保事業費納付金(千円)	1人あたり納付金(円)
30年度	6,271人	755,015	120,398
31年度	5,824人	669,376	114,934
差	-447人	-85,639	-5,464

県保健指導課、栄町からの聞き取りによる

険者数は6,271人。栄町には5,861人分の保険料収入しかないのに、県からは6,271人分の国保事業費納付金の支払いを求められ、結果、町が不足する410人分の保険料の負担を強いられていた事になるのです。

●栄町8千5百万円大幅減、印西市でも5千4百万円減

9月に続きこの問題を取りあげた2月の県議会では、県が被保険者数の推計方法を大きく見直した事が明らかに。被保険者数の減少率が年々小さくなっている事を考慮し、伸び率（減少率）を過小評価する事がないよう、前年度からの単年度伸び率を使う事にしたというもの。結果、県内被保険者数は、30年度147.7万人から31年度137.3万人へと実に5.7%の大幅減。言い換えれば、30年度は各市町村が6%近くも余分に、国保事業費納付金を負担していた事になるのです。

栄町では、6,271人とされていた推計被保険者数が31年度5,824人と前年度比447人減。負担する国保事業費納付金は8千5百万円余りの減となり、被保険者数1人あたりでは5,464円の大幅な減少です。また、印西市も同様に被保険者数が549人減、国保事業費納付金は5千4百万円余りの大幅減となっています。

この国保事業費納付金に関わる推計被保険者数は、県内各自治体に関わる大きな問題。32年度以降についても引き続き注視してまいります。



続報「見えない横断歩道」 印西市77か所、栄町10か所

うちに補修するとしています。

歩行者の安全を脅かしかねない、見えない横断歩道。県警は横断歩道の総点検を完了し、年度内に、全県で補修が必要な3,500か所のうち2,100か所、印西市、栄町で補修が必要な計87か所のうち48か所の補修を終えるとしています。

●昨年8月末時点で1万3千か所の点検を終了

横断歩道上での交通事故が絶えない中、「見えない横断歩道」の問題については、いわちゃんポスト2月号にて取り上げたところです。車両は、横断待ちの歩行者がいる場合に横断歩道の手前で停止しなければなりません。肝心の横断歩道が摩耗してしまい、見えない・見えにくい状態のものが少なくありません。歩行者の通行が多い駅前や児童・生徒の利用が多い通学路でさえ、管理が行き届いていない、消えかかった横断歩道が散見されるのです。

県警が実施した県内横断歩道の一斉点検で、昨年8月末時点で点検を終えていた1万3千か

県内の横断歩道補修状況

横断歩道数	補修必要箇所数	年度内補修箇所数
2万1,940	約3,500	約2,100

30年度末時点、県警・交通規制課からの聞き取りによる

所の横断歩道のうち、著しく摩耗し見えづらいものは約1,700か所。実に全体の13%にも上っていました。

●県内横断歩道の16%、3,500か所が「要補修」

岩井は2月県議会・予算委員会にて、見えない横断歩道の問題を改めて指摘するとともに、補修が必要な横断歩道の実態とその取り組み状況を確認。県によれば、昨年12月までに県内2万1,940か所の横断歩道の総点検を完了。そのうち摩耗等により著しく見えにくくなっているなどして、「要補修」とされた横断歩道は計3,500か所とのこと。30年度当初予算と9月補正予算をあわせて2億1千万円余りを計上し、年度内に横断歩道2,850か所を補修するとしていましたが、信号機のない横断歩道の手前に標示し、ドライバーに注意を喚起する「ダイヤモンド」の整備にも予算を充てたことから、年度内に行う横断歩道補修は2,100か所にとどまる一方、未補修として残る1,400の横断歩道は、31年度の早い



ダイヤモンド

●印西市41か所、栄町7か所 年度内補修

一方、印西市内で補修が必要な77か所のうち年度内補修は41か所。同じく栄町内10

印西市・栄町の横断歩道補修状況

	補修必要箇所数	年度内補修箇所数
印西市	77	41
栄町	10	7

30年度末、県警交通規制課によるか所のうち年度内補修は7か所となっており、やや印西市内の対応が遅れている状況です。

また、印西市、栄町内の「補修必要横断歩道リスト」を確認しましたが、これ以外にも見えにくくなっている横断歩道はありそうです。身近に見えにくいと感じる横断歩道を見つけたら、岩井までお知らせください。個別にしっかり対応させていただきます。

千葉県議会議員 岩井やすのり

1970年生まれ49歳 2期目現職。専修大卒、早稲田大学大学院政治学研究科修了。

「いわちゃんポスト」を毎月発行し、印西市・栄町内の各駅頭にて配布。

